

Title	糖尿病患者におけるGlibenclamide血漿濃度とその変動
Sub Title	
Author	松田, 文子(Matsuda, Ayako) 葛谷, 健( Kuzuya, Takeshi) 杉田, 泰雄( Sugita, Yasuo) 坂本, 美一( Sakamoto, Yoshikazu) 川島, 紘一郎( Kawashima, Koichiro)
Publisher	共立薬科大学
Publication year	1984
Jtitle	共立薬科大学研究年報 (The annual report of the Kyoritsu College of Pharmacy). No.29 (1984. ) ,p.52- 52
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	抄録
Genre	Technical Report
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062898-00000029-0052">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062898-00000029-0052</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 糖尿病患者における Glibenclamide 血漿濃度とその変動\*

Ayako MATSUDA\*\*, Takeshi KUZUYA\*\*, Yasuo SUGITA\*\*,  
Yoshikazu SAKAMOTO\*\* and Koichiro KAWASHIMA

松田文子\*\*, 葛谷 健\*\*, 杉田泰雄\*\*  
坂本美一\*\*, 川島紘一郎

既報の radioimmunoassay を用い、日常糖尿病患者に投薬される条件下での glibenclamide の血中濃度を検討した。1 カ月以上、同一量の glibenclamide を服用していた糖尿病患者の早朝空腹時血漿薬剤濃度は投与量の増加とともに上昇傾向を示したが、個々のばらつきが大きく、検出感度以下の例も多かった。約 2 週間 glibenclamide を服用している患者に 2.5 mg または 5 mg を 1 回服用させると血中濃度はそれぞれ 90 分、120 分に最高値  $82 \pm 27$ ,  $149 \pm 60$  ng/ml に達し、以後それぞれ 2.7 時間、2.9 時間の半減期で低下した。正常者における 2.5 mg 1 回投与後の最高値は  $72 \pm 32$  ng/ml で半減期は 2.3 時間であった。腎不全または肝硬変症を伴う糖尿病患者では 2.5 mg 1 回投与時の血中濃度の最高値は、腎障害、肝障害のない患者と有意差はなかったが、半減期は各 2.5 時間、3.5 時間と後者で延長傾向を認めた。Glibenclamide 5 mg 服用中の患者で朝 1 回投与法と朝夕分割投与法を比較すると、薬剤の血中濃度は服用の都度上昇したが、血糖、血漿インスリンの日内変動にはほとんど差異はなかった。Tolbutamide, acetohexamide, chlorpropamide 服用中の患者血漿は本測定系の標識 glibenclamide と抗血清との反応を阻害した。この交差反応により種々の血中スルフォニル尿素剤の定性的検出が可能であり、同剤による低血糖昏睡患者の原因診断に応用出来る可能性がある。

\* 本報告は、糖尿病, 25, 213—220 (1982) に発表

\*\* 自治医大・内分泌代謝科